

地方独立行政法人神戸市民病院機構 第2期中期目標

前文

神戸市立医療センター中央市民病院及び神戸市立医療センター西市民病院（以下これらを「市民病院」という。）は、平成21年4月の地方独立行政法人化後も、神戸市立医療センター中央市民病院（以下「中央市民病院」という。）は市全域の基幹病院として、神戸市立医療センター西市民病院（以下「西市民病院」という。）は市街地西部の中核病院として、救急医療、感染症医療をはじめとした市民病院としての役割を引き続き果たしてきた。

第1期中期目標期間では、理事長及び院長のリーダーシップの下、職員が一丸となり、地域医療機関と連携し、市民の生命と健康を守るという使命を果たし、質の高い医療サービスの提供に努めてきた。一方で、地方独立行政法人のメリットを生かした柔軟で迅速な意思決定の下、効率的な病院運営を行い、中期目標期間中の資金収支の均衡を達成する見込みである。また、大きな命題であった中央市民病院の移転は、PFI手法を用いた再整備を実施し、新病院開院後も順調に運営を行っている。

第2期中期目標では、「市民のための病院」として市民の信頼を高めることとし、救急医療及び感染症医療や市内の医療機関では対応が困難な高度医療並びに不足している専門医療など（以下これらを「政策的医療」という。）を行い、公的役割を果たしていくこととする。そのため、地域の医療機関等との連携を強化し、市民及び患者のニーズに応じたサービスを提供するとともに、職員の人材育成にも努め、活気があふれ職員が働きやすくやりがいがある環境を整備する。

さらに、経営の面では、第1期中期目標期間に実践された効率的な病院運営を踏まえ、全ての職員が目標を共有し、協力して目標を達成するための仕組みを確立するとともに、社会情勢や医療を取り巻くさまざまな環境の変化への対応を行いつつ、市民のニーズ等を踏まえた投資については計画的に実施するなど長期的視点に立った質の高い経営を行う。

引き続き、市民及び患者に対して質の高い医療を提供するための体制を堅持し、市民病院としての使命を果たすことを求め、ここに市長が市民病院機構に示す基本的な方針である第2期中期目標を定める。